

我が県土
支え育む
希望郷



美しい

県土づくりNEWS

2022年

3月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌第 212 号
令和 4 年 3 月 31 日発行
編集 県土整備企画室



目次

- 2 一般国道340号葉山～恵蘇工区が全線開通しました！
- 4 一般国道107号大石地区のトンネルによる復旧について
- 7 令和3年度の高校生との協働による橋梁点検を実施しました！！
- 11 住民団体等への草刈り業務委託制度を紹介します！
- 12 北上・西和賀の除雪記録展を開催しています！
- 13 東日本大震災津波からの復興に向けて～令和3年度 県土整備部の取組状況～

一般国道 340 号葉山～恵蘇工区が 全線開通しました！

県が「復興支援道路」に位置付け整備を進めている一般国道 340 号葉山～恵蘇工区が令和 4 年 3 月 25 日（金）10 時に全線開通しました。



【復興支援道路】

はやま えぞ
一般国道340号 葉山～恵蘇工区が全線開通しました！

沿岸広域振興局土木部 大船渡土木センター

県が「復興支援道路」に位置付け整備を進めている一般国道340号葉山～恵蘇工区（延長約1.5km）が令和4年3月25日（金）10時に全線開通しましたので、お知らせします。

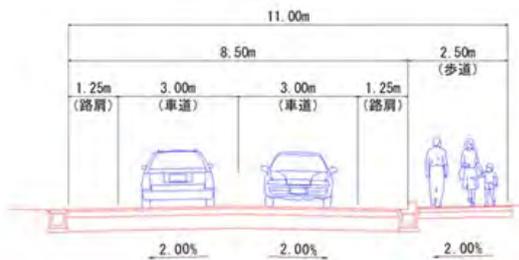
今回の開通により、**変形交差点・落石危険個所が解消**することで安全で円滑な交通が確保されるほか、**観光ルート強化による交流人口の拡大・観光振興の活性化**につながり、三陸沿岸地域の復興を力強く後押しすることが期待されます。



【事業概要】

- ・ 事業延長 1,450m
- ・ 幅員 6.0 (11.0) m
- ・ 事業期間 平成27年度～令和3年度
- ・ 総事業費 33.5億円
- ・ 主要構造物
 - 新馬場野橋 25m(令和2年完成)
 - しんばばのはし
 - 新曾古内橋 35m(令和3年6月完成)
 - しんそこないばし
 - ざおうどうばし
 - 蔵王洞橋 58m(令和4年3月完成)

標準断面図



○ 整備効果

1 変形交差点・落石危険個所の解消による安全で円滑な交通を確保し、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築。



2 観光ルート強化による交流人口拡大・観光振興活性化



【概要図】



一般国道 107 号大石地区のトンネルによる復旧について

県南広域振興局土木部北上土木センター

■災害復旧事業の採択

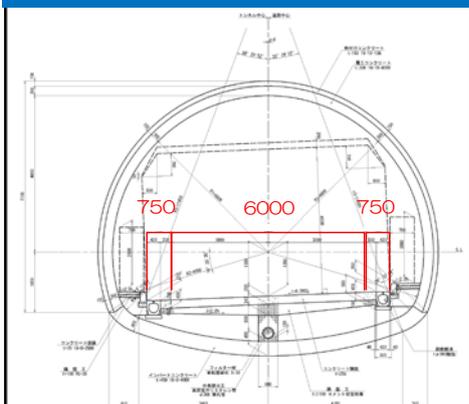
一般国道 107 号大石地区において発生した地すべり災害について、2月1日から2日にかけて災害査定が行われ、その後、国の審査が行われていましたが、2月24日、トンネルによる別線にて復旧する下記の内容により災害復旧事業としての採択が決定しました。

- ・ 決定額 C=約 130 億円
- ・ 復旧延長 L=2,447.3m、道路幅員 7.5~12.5m
- ・ トンネル工 L=1,470m、橋梁工 L=70m
- ・ 応急仮工事 N=1 式（押え盛土工、仮橋工、横ボーリング工）

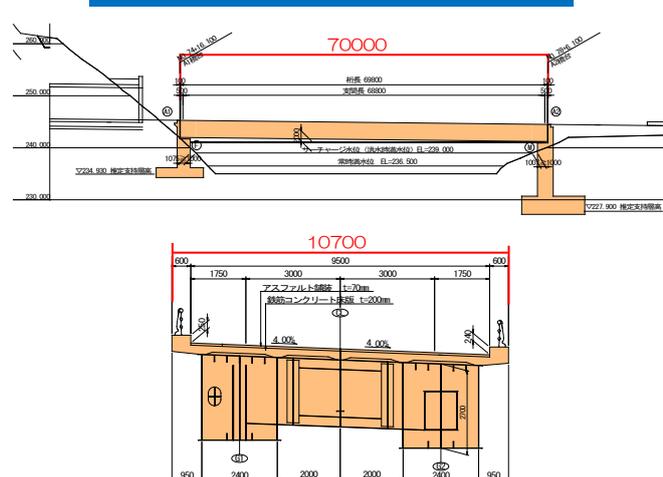
大石地区 平面図



トンネル部 標準断面図



橋梁部 標準図



今春の融雪期に地すべりの動きが活発化する可能性があることから、応急押え盛土工事を実施しており、令和4年3月に完成しました。

また、仮橋の架設工事と製作工事を分割し、製作工事に先行して着手しており、資材の製作と現地までの運搬後、速やかに仮橋架設が可能になるよう取り組んでいます。

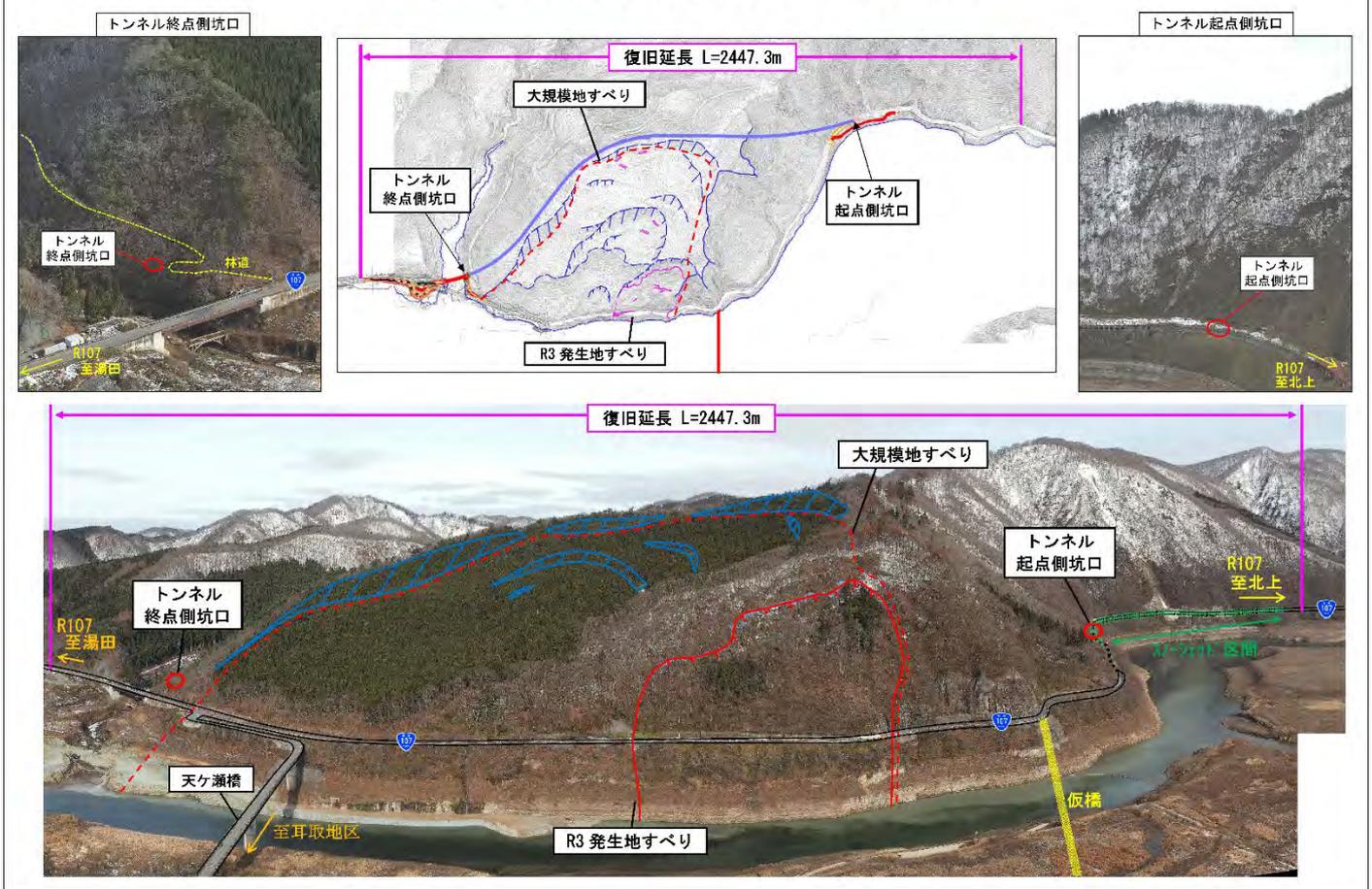
■大石地区地すべり災害の概要

一般国道107号は、岩手県大船渡市と秋田県由利本荘市を結ぶ重要幹線道路であり、岩手県地域防災計画に基づく緊急輸送道路（第一次）の役割も担っています。

令和3年5月1日（土）に県内で観測した地震に伴う道路施設点検の際、道路路面の段差及び、道路法枠の変状を発見したため、全面通行止めとし現在も継続中です。

国立研究開発法人土木研究所等の有識者との2回にわたる現地協議を経て、水抜きボーリング及び土質ボーリング調査を実施した後、孔内歪計や地盤傾斜計等による変動観測を開始しており、現在融雪期に向けた動向を監視しています。

一般国道107号岩手県西和賀町大石地内（地すべり）



被災規模



被災状況[法面]令和3年6月3日撮影



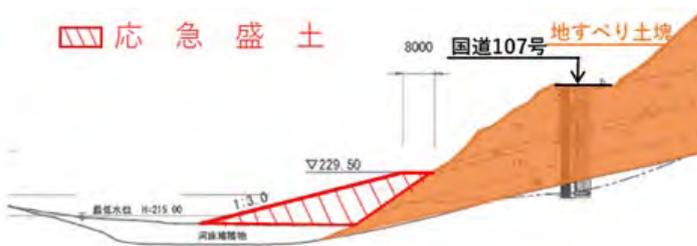
被災状況[道路] 令和3年7月3日撮影



被災状況[道路]令和3年10月12日撮影



応急盛土 進捗断面図



応急盛土実施状況(令和4年3月7日撮影)



国の専門家による調査(令和3年5月10日)



水抜きホ-リング掘進状況(令和3年6月7日)



令和3年度の高校生との協働による橋梁点検を実施しました!!

～ 道路インフラメンテナンスの理解向上と土木技術者の担い手の確保・育成を推進～

道路環境課

県が管理する道路橋（約 2,800 橋）は、建設後 50 年以上経過する橋梁の割合が現在の約3割から 20 年後には約7割と大幅に上昇する見込みであり、**老朽化対策が深刻な課題**となっています。

県では、老朽化した橋梁のメンテナンスを適切に行うため、道路法施行規則に基づき、**5年に1回の頻度で橋梁点検（近接目視点検）**を行っています。

令和元年度からは、道路インフラメンテナンスの必要性や重要性の理解向上と、自ら実施した点検が県民の安全な暮らしを支えることとなる土木の魅力を感じてもらうことにより、**土木技術者の担い手の確保・育成を推進**するため、**県内工業高校との協働による橋梁点検**に取り組んでおり、今年度は、土木系学科を有する**県内全ての工業高校**（全4校：盛岡工業、黒沢尻工業、一関工業、久慈工業）と橋梁点検を実施しましたので、御紹介します。

令和3年度の高校生との協働による橋梁点検実施状況

高校 (対象生徒)	内容	実施年月日
盛岡工業 (土木科3年生・ 道路橋梁調査班8人)	現地点検	R3.12.9
	健全性診断	R4.1.21
	報告会	R4.2.21
黒沢尻工業 (土木科3年生・ 橋梁点検班5人)	現地点検	R3.9.27
	健全性診断	R3.12.13
	報告会	R4.2.8
一関工業 (土木科3年生・ 関工橋梁点検隊7人)	現地点検	R3.10.29
	健全性診断	R3.12.23
	報告会	R4.1.25
久慈工業 (建設環境科2年生・ 環境土木コース7人)	現地点検	R3.11.25
	健全性診断	R4.1.19
	報告会	R4.3.29

【現地点検(黒沢尻工業高校)】



【健全性診断(盛岡工業高校)】



**メンテナンスサイクル
を実習形式で学習**



【補修設計勉強会(盛岡工業高校)】

1 現地点検

現地点検では、岩手県の道路メンテナンスへの取組等について学校で学んだ後、県や点検業者（設計コンサルタント）の指導を受けながら、生徒自らが橋梁点検を行いました。点検に参加した生徒達は、橋梁点検車に乗車し、ハンマーによる打音検査やクラックスケールを用いたひび割れ計測等による劣化状況などを熱心に点検していました。

県では、毎年度約 500～600 橋の点検を実施していますが、維持管理費用の増加や人口減少が見込まれる中、**新技術等を活用して効率的かつ効果的な点検**を進めていく必要があります。このため、令和3年度からは「点検支援性能カタログ（案） 令和2年6月 国土交通省」などを参考に、**ドローンなどの新技術を活用した点検**に本格的に取り組んでおり、令和3年度の高校生との協働による点検でも、新技術を活用した橋梁点検を行いました。

ドローンを活用した橋梁点検では、近接目視による点検が困難だったアーチ部などの狭小箇所の点検をドローンを使用して行い、生徒達はドローンから出力される映像をモニターにより観察し、床版等の損傷状況を確認しました。

また、コンクリート構造物のうき・剥離など欠損部（空隙）の有無やその深さをリアルタイムで判定してLED表示する新技術のコンクリート構造物変状部検知システムを活用した橋梁点検では、従来手法の点検ハンマーによる打音検査と新技術による点検を交互に行うなど、新技術の便利さを実感している様子でした。



2 健全性診断

健全性診断では、生徒が現地点検を行った橋梁の損傷状況等を写真で確認し、県や点検業者（設計コンサルタント）の指導を受けながら、「岩手県道路橋定期点検要領」に基づいて、点検橋梁の健全性を診断しました。

橋梁点検では、現場での点検結果を踏まえて、橋梁の健全性をⅠ～Ⅳの4段階に区分しますが、今回の点検を行った橋梁について健全性診断を行った結果、一関工業高校が点検を行った4橋のうち3橋、黒沢尻工業高校が点検を行った4橋のうち3橋、盛岡工業高校が点検を行った4橋全て、久慈工業高校が点検を行った4橋のうち2橋の健全性が判定区分Ⅲ（早期措置段階）と判定されました。

判定区分Ⅲ（早期措置段階）と診断された橋梁は、道路橋の機能に支障が生じることが懸念されるため、次回点検（5年後）までに修繕を行うことが望ましいとされており、県では、今回の点検結果を踏まえて、判定区分Ⅲと診断された橋梁について、来年度からの補修設計着手に向けて検討を進めていきます。

健全性診断の実施状況（一関工業高校）



健全性診断の実施状況（黒沢尻工業高校）



3 報告会

報告会では、生徒達が実施した現地点検及び健全性診断の結果に基づき、点検調書を取りまとめた結果を県に報告していただきました。生徒から、点検を行ったそれぞれの橋梁を管理する広域振興局土木部長・土木センター所長に点検調書を手交した後、点検した橋梁の点検結果や健全性の診断結果等を報告していただきました。

今回の協働による橋梁点検の点検調書は、それぞれの橋梁の**今後の修繕計画等に活用する予定であり**、点検調書には**協働で点検を行った生徒の名前が記載され**、橋とともに残り続けます。

**判定区分Ⅲと診断された
葦内橋の点検調書**

点検調書(その5) 調査写真	区間番号	1	起点側	橋長	33.30/202	140.818300	
橋名	ひしのいし 葦内橋	橋長	一家田堤 107号	管理名称	県庁式橋梁/河川土木部 北上土木センター	橋	
写真番号	25	撮影日	2021.9.27	写真番号	26		
撮影の橋脚	左橋本/流石石段	撮影位置	上	撮影の経緯	北東側/大田		
写真説明	葦内橋の点検写真 左橋脚部 0.0m付近のコンクリート の劣化状況(2021年9月)	写真説明	葦内橋の点検写真 右橋脚部 0.0m付近のコンクリート の劣化状況(2021年9月)	写真説明	葦内橋の点検写真 左橋脚部 0.0m付近のコンクリート の劣化状況(2021年9月)	写真説明	葦内橋の点検写真 右橋脚部 0.0m付近のコンクリート の劣化状況(2021年9月)

点検調書(その1) 橋梁種別と総合検査結果	点検回数	4	運用	12点制	総合	39.30/20	140.7890	橋脚口	39.30/20 140.7890
橋名	葦内橋	路線名	一関線 107号	管理名称	岩手県河川振興土木部	橋脚番号	03207		
所在地	岩手県北上市葦内町(旧日野町)	座標	No. 453 13.0	設置年度/年月日	2001年 12月 13日				
形式	石橋/橋上/桁架橋(鋼橋)は33.30m	規格/規格	No.14-9-1-0	規格/規格	橋梁規格第37-2001 JAV	規格/年月日	2021年 3月 27日		
完成年月日	1975年 11月 日	橋長	33.30 m	橋脚数	1	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式
上部工形式	上部工形式/桁架橋	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式
下部工形式	土質/コンクリート	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式
橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式	橋脚形式

岩手県立黒沢尻工業高等学校
金澤我羽、菊地瑞希、佐藤彪雅
高橋明大、三河魁吏

**点検調書には県と協働で点検を行った
生徒の名前が記載**

一関土木センター小野寺所長への点検調書手交（一関工業高校）



集合写真（一関工業高校）



北上土木センター及川所長への点検調書手交（黒沢尻工業高校）



集合写真（黒沢尻工業高校）



盛岡広域振興局土木部高橋部長への点検調書手交（盛岡工業高校）



集合写真（盛岡工業高校）



県北広域振興局土木部和村部長への点検調書手交（久慈工業高校）



集合写真（久慈工業高校）



建設企業は、建設業従事者の高齢化や若手従事者の減少等が進んでいるため、**担い手の確保・育成**が重要な課題となっています。今回の協働による橋梁点検や勉強会等を契機に、生徒達がインフラメンテナンスの重要性や建設業の役割等を再認識し、**将来の岩手を支える建設企業の担い手**となっただけことを期待しています。

県では、今後とも、老朽化が進む道路施設の計画的な修繕等を行うとともに、県民の生活を支える道路インフラの良好な利用環境等を確保するため、県民との協働による維持管理を推進していきます。

住民団体等への草刈り業務委託制度を紹介します！

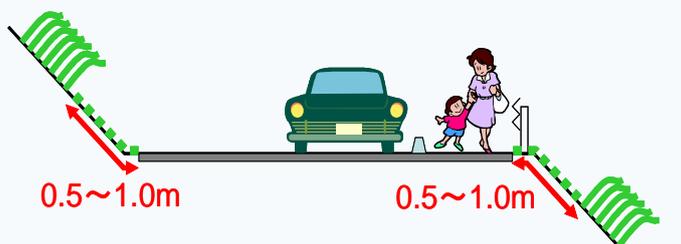
道路環境課

道路を安全・安心に利用するためには、草刈り、清掃、除雪、施設の修繕等、日常の維持管理が欠かせません。岩手県では、住民団体等と協働で実施する道路脇の草刈り業務委託を県内各地で実施しており、令和3年度は県全体で **357 団体に県管理道路の草刈りを実施していただきました！**

令和4年度も本制度により住民団体等と協働による草刈りに取り組むこととしていますので、快適なみちづくりに向けた御理解と御協力をお願いします。

草刈りの実施範囲・時期

- 草刈りの実施区間は、住民団体等が存在する地域又は隣接地域の範囲内とし、**最寄りの広域振興局土木部又は土木センターと協議により決定**します。
- 草刈の範囲は道路の両脇 **0.5~1.0m** とします。
- 道路脇の作業となるため、安全には最大限注意をお願いします。必要に応じて、県からヘルメット、安全チョッキ等を貸し出します。



令和3年度契約団体数と実施延長

広域振興局	団体数	実施延長(km)
盛岡	34	157
県南	244	1,031
沿岸	32	194
県北	47	270
県全体	357	1,652

令和3年度の草刈り実施状況



道路美化に貢献し継続して本委託を実施している団体の方々は、道路愛護団体として知事感謝状贈呈の対象となります。詳細は、岩手県ホームページ又はお近くの広域振興局土木部・土木センターへお問い合わせください。



北上・西和賀の除雪記録展を開催しています！

県南広域振興局土木部北上土木センター

今シーズンも降雪・積雪が多く、**道路利用者の安全安心の確保**に向け、除雪業務等に
従事している**道路管理者**や**除雪オペレーター**の業務を紹介するため、**パネル展**を開
催しています。

北上・西和賀の除雪 記録展



主な展示内容

- 除雪ってどんなこと？
(除雪のはなし)
- これまでの北上・西和賀地区の
積雪の記録と被害
- 除雪オペレーターのしごと
- 除雪オペレーター育成に向けた
合同除雪訓練の紹介

など

今年の冬はとても雪が
多かったですね！

そこで、皆さんにあまり
知られていない、これ
までの積雪や除雪のこと
について展示します。
是非、ご覧ください。



※入場無料

〇日時

令和4年3月24日(木)

～4月15日(金)

午前9時～午後4時

※土日は入場できません

〇場所

北上地区合同庁舎 1階県民ホール

来場される皆様へ

- 展示内容を詳しく知りたい場合は、北上土木センターの職員が御説明しますので、
会場に掲示された連絡先にお問合せください。
- 会場には、新型コロナウイルス感染症対策として消毒液等を設置しています。

問い合わせ

県南広域振興局土木部北上土木センター Te l 0197-65-2738

東日本大震災津波からの復興に向けて ～令和3年度 県土整備部の取組状況～

県土整備企画室

令和4年3月11日で東日本大震災津波の発災から11年が経過しました。
 県土整備部は、被災地の一日も早い復興に向けて、インフラの復旧や整備等に取り組んでいます。今号では、復興に向けた令和3年度の主な取組をご紹介します。

復興道路等の整備 ～災害に強く、新たなまちを支える復興道路が全線開通～

国による復興のリーディングプロジェクトとして、整備を進めてきた復興道路は、令和3年12月三陸沿岸道路「普代～久慈」間の開通により、全線開通を迎え、仙台市から八戸市までの359kmが自動車専用道路で結ばれました。

復興道路を補完する道路として、県が施工する復興支援道路や復興関連道路等については、一般国道340号今泉大橋工区（陸前高田市）、一般国道281号下川井工区（久慈市）など新たに3箇所が開通しました。

令和3年度までに、復興支援道路については整備計画箇所38箇所全てが、復興関連道路については整備計画箇所20箇所のうち19箇所が開通しています。

今後、復興道路等は、物流、観光、救急医療、防災など様々な面で整備効果を発揮し、復興を力強く後押ししていくことが期待されます。



▲ 三陸沿岸道路「普代～久慈」間 開通式（令和3年12月18日）



▲ 三陸沿岸道路全線開通イベント（下安家大橋）



▲ 今泉大橋工区 全景写真

海岸保全施設等の復旧・整備

～津波防災施設は約95%の地区で完成、砂浜再生箇所で海開き～

防潮堤や水門等については、県、市町村合わせて134地区のうち、**県土整備部では65地区で整備を進めています**。今年度は、関口川水門（山田町）など3地区が概成し、**3月末までに約95%の地区の概成を予定しています**。

津波発生時に現地で人が操作することなく、安全かつ迅速・確実に閉鎖できる「**水門・陸間自動閉鎖システム**」は、**2月末までに214箇所中165箇所が運用しています**。

津波防災施設の仕組みや効果・限界、東日本大震災津波後の教訓を活かした施設整備の取組などを学んでもらうために、**津波防災施設の見学や出前授業を実施しています**。

令和2年度に砂浜再生工事を終えた釜石市根浜海岸（釜石市）と高田海岸（陸前高田市）では、海開きが行われ、多くの人でにぎわいました。



▲跡浜海岸防潮堤(大船渡市):R3.12完成



▲施設見学会の様子

(種市小学校@川尻水門)



▲根浜海岸(釜石市)の様子

高田松原津波復興祈念公園

～東日本大震災津波からの復興の象徴となる施設が全面供用～

追悼と鎮魂、震災の事実と教訓の伝承、賑わい空間として国、岩手県、陸前高田市が連携して整備を進めてきた高田松原津波復興祈念公園が令和3年12月に全面供用となりました。

東日本大震災津波伝承館 (R3.12に入館者46万人突破!)



公園管理事務所



R3.12.26 公園管理事務所開所式と市民協働イベント

タピック45 (旧 道の駅高田松原)



R3からパークガイド同伴で内部見学可能

三陸花火競技大会



R3.10.9開催

復興11年にあたって

現在も実施している事業箇所について、一日も早い完成に向けて取り組むとともに、整備したインフラの利活用や、被災者のこころのケアやコミュニティ形成支援など中長期的に取り組むべきソフト事業を始め、引き続き必要な施策を進めていきます。